



男子三日会わざれば...

昨年は6月のうちに梅雨明けして7月は暑い日が続きましたが、今年は雨が多く、太陽の日差しが待ち遠しい日が続いています。4月のスタートから4カ月近くが過ぎ、1年間のほぼ三分の一を経過しました。過ぎてしまえばあっという間だったような気もしますが、子供たちは今日まで様々な行事や出来事を通していろいろなことを経験し、悩み、乗り越えてきました。

一つ乗り越えるたびに子供たちは少しずつ成長していくのですが、子供の成長は大変ゆるやかなので、ふだん私たちはあまり感じることはありません。特に子供の内面的な変化は見ただけではわかりにくいものです。しかし、学校で子供たちを見ていると、ある時、急に成長するように感じる場合があります。

それは、何かを直接体験したとき、そして、それをやり遂げたときです。そういう時に子供たちはほんの数日であってもグンと成長するように思えます。

「男子三日会わざれば、刮目(かつもく)して見るべし」という言葉がありますが、中学生の時期は、ほんのわずかな期間であっても、その間の経験や本人の姿勢次第で大きく変化するものです。人は人と触れ合うことで成長しますし、様々な体験を通して新しい発見をしていきます。クラスや部活動の仲間とともに、たくさんの体験をしてきたこの4か月間は、それぞれの子供たちにとって貴重な4か月間だったと思います。うまくいったことも、うまくいかなかったことも含めて、すべての体験は必ずこの先につながっていくはずで、すべてを自分自身の財産として大切にこの先に進んでいってほしいと思います。

さて、いよいよ明日から夏季休業期間に入ります。総体も後半戦となり、先週試合を終えた部もあれば、これから大会初日を迎える部、先週から試合が継続している部もあります。また、この後はサマーコンサートやコンクール、発表会や公演等もあります。壮行会でも全校生徒に話しましたが、子供たち一人ひとりにとって満足できる経験となることを心より願っています。

総体が終わると部活動はいよいよ1・2年生にバトンが渡されます。その後、おそらく3年生は今までの人生の中で一番勉強に取り組む夏になることでしょう。1年の3分の1が過ぎたということは、まだあと3分の2あるということです。どの学年もまだ走り始めたばかりです。来年3月にゴールする姿を楽しみにしています。



「男子三日会わざれば、刮目して見るべし」

原文…「士別れて三日なれば刮目して相對すべき。」

(日々鍛錬する人は、三日もたつと見違えるほど成長しているものだ、という意味。)

【出典…三国志 演義】